ホクコーCs.オリゼリディアEV箱粒剤

■種 類 名：フルピリミン・プロベナゾール・ペンフルフェン粒剤
■有効成分：フルピリミン---------- 2.0%
プロベナゾール---------- 16.0%
ペンフルフェン---------- 2.0%
■化管法指定物質：プロベナゾール［第１種］ ---------- 16.0%
ペンフルフェン［第１種］ ---------- 2.0%

■登録番号：第24486号
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2021.01.27
■性　　状：褐色細粒
■有効年限：4年
■包　　装：1kg×12袋、10kg×1袋

【特長】

- 水稲のいもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ等を長期間にわたり同時防除できる。
- 稲の育苗箱施用、側条施用及び湛水直播水稲のは種時処理が可能。
- フルピリミンは新規作用機作を有しており、既存の各種殺虫剤に感受性が低下した害虫種にも有効である。

【適用内容】（2024年11月末日現在）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>フルピリミンを含む農薬の総使用回数</th><th>プロベナゾールを含む農薬の総使用回数</th><th>ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td>湛水直播水稲</td><td>いもち病
紋枯病
イネミズゾウムシ</td><td rowspan="2">1kg/10a</td><td>は種時</td><td rowspan="6">1回</td><td>は種同時施薬機を用いて土中施用する。</td><td>３回以内（は種時までの処理は１回以内、本田では２回以内）</td><td>２回以内（は種時までの処理は１回以内）</td><td rowspan="6">１回</td></tr>
<tr><td>稲</td><td>いもち病
紋枯病
イネドロオイムシ
イネミズゾウムシ
ウンカ類
ツマグロヨコバイ</td><td>移植時</td><td>側条施用</td><td>３回以内（直播でのは種時又は移植時までの処理は１回以内、本田では２回以内）</td><td rowspan="4">２回以内（移植時までの処理は１回以内）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">稲
（箱育苗）</td><td>いもち病
紋枯病
イネドロオイムシ
イネミズゾウムシ
ウンカ類
ツマグロヨコバイ</td><td rowspan="2">育苗箱
（30×60×3cm、使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ）
１箱当り 50g</td><td>移植７日前～移植当日</td><td rowspan="3">育苗箱の上から均一に散布する。</td><td rowspan="3">３回以内（移植時までの処理は１回以内、本田では２回以内）</td></tr>
<tr><td>白葉枯病
もみ枯細菌病
ニカメイチュウ
フタオビコヤガ
イナゴ類
イネツトムシ</td><td rowspan="2">移植３日前～移植当日</td></tr>
<tr><td>いもち病
紋枯病
白葉枯病
もみ枯細菌病
イネドロオイムシ
イネミズゾウムシ
ウンカ類
ツマグロヨコバイ
ニカメイチュウ
フタオビコヤガ
イナゴ類
イネツトムシ</td><td>高密度には種する場合は1kg/10a
（育苗箱
（30×60×3cm、使用土壌約5ﾘｯﾄﾙ）
１箱当り
50～100g）</td></tr>
</table>

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ◆ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ◆ 移植後は湛水状態（湛水深３～５㎝）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ◆ 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予想される場合には使用をさけること。
- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ◆ 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とした後、十分灌水すること。
  - ◆ 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - ◆ 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - ◆ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - ◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深３～５ ㎝）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ◆ 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
  - ◆ 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
  - ◆ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
  - ◆ 育苗箱（30×60×3㎝、使用土壌約５㍑）１箱当りに乾籾として２００から３００g 程度を高密度には種する場合は、１０a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が１kg/１０a までとなるよう、育苗箱１箱当りの薬量を５０から１００g までの範囲で調整すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないよう注意すること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
  使用後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。